



おしえてドクター ⑬

肺がんに対する外科治療の進歩

肺がんは、亡くなる方が最も多い「がん」です。CT検診の普及に伴い早期発見が増えており、より負担の少ない「低侵襲手術」や肺を小さく切除する「縮小手術」の研究が進んでおります。

<低侵襲手術の進歩>

約30年前までは、大きな傷で場合によっては肋骨を切る「開胸手術」がほとんどでしたが、ここ10年ほどで、複数の小さい傷で手術する「胸腔鏡下手術」が主流になっております。

さらに、数年前からは手術支援ロボットを用いた「ロボット手術」や、1カ所のみ小さい傷で手術を行う「単孔式手術」へと進化・普及し始めました。

これらの手術は、いまだ標準的ではありませんが、「胸腔鏡下手術」に比べて「ロボット手術」ではより精密な手術に、「単孔式手術」ではより患者さんの負担軽減につながるとされています。

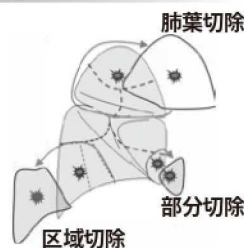
<縮小手術の進歩>

肺は左右合わせて5つの部屋に分かれており、これを「肺葉」と呼びます。その「肺葉」はさらに複数の小部屋に分かれ、これを「肺区域」と呼びます。従来、肺がん手術は「肺葉」の切除が主流でした。しかし、

2020年ころから、日本発の研究結果が発表され始め、早期肺がん患者さんの一部に対して、「肺区域」の切除や辺縁の一部を切除する「部分切除」などの「縮小手術」でも同等の結果を得られることが判明しました。切除する肺をなるべく減らす「縮小手術」は、「呼吸の機能」の温存が可能で、手術後の息苦しさの軽減が期待できます。

これらの手術は、病院設備や呼吸器外科の方針によって導入状況が異なります。

当院では、「単孔式胸腔鏡下手術」や「縮小手術」を積極的に導入しており、他の手術方法についても相談いただくことが可能です。



市立甲府病院外科 松岡弘泰ドクター

- ・平成19年山梨医科大学(現山梨大学医学部)卒業
- ・山梨大学医学部附属病院などを経て、令和2年から当院勤務。現在は外科科長
- ・日本外科学会専門医・指導医、呼吸器外科専門医・評議員、がん治療認定医、内視鏡外科技術認定医

問市立甲府病院…☎055(244)1111

お医者さんにかかるときは…

問健康保険課…☎055(237)5371

医療機関を上手に受診しましょう

同じ病気で安易に医療機関を受診すると医療費の増加に加え、検査や薬の重複で体への影響が心配されます。治療法に不安がある場合は医師に相談しましょう。

かかりつけ医を持ちましょう

体調に気になることがあった場合、自分の病歴や健康状態を把握している「かかりつけ医」がいると安心です。



お薬手帳を活用しましょう

薬は用量・用法を守って服用しなければ効果が得られないばかりか、副作用を生じることがあります。手元に飲み残した薬やすでに処方されている薬がある場合は、医師や薬剤師に相談しましょう。

「お薬手帳」を1冊にすると
処方薬の確認ができます。
受診の際は医師に「お薬手帳」を
提示しましょう。



家計にもやさしいジェネリック医薬品を活用してみませんか？

ジェネリック医薬品は、厚生労働省が安全性や効き目が新薬(先発医薬品)と同等と認めている薬です。開発コストが抑えられるため低価格となり、皆さんの薬代負担軽減や安定した医療保険制度の維持にもつながります。

※変更できない薬や取り扱いのない薬もあるので、ご利用の際は医師や薬剤師に相談しましょう。なお、現在一部のジェネリック医薬品の供給に不安定な状況が見受けられ、薬局などで購入できない場合があります。